

～巻頭言～

## 十字架でイエス様が残された平和

「わたしは、平和をあなた方に残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。」(ヨハネ14:27)

3月には十字架を偲んで身を節し、感謝して過ごす受難節にあたります。人々は罵りました。「神の子なら、自分を救ってみろ、十字架から降りて来い」と。しかし数々の奇跡をなさった力を、イエス様はご自分の為には用いられませんでした。十字架上で「彼らをお赦し下さい。彼らは何をしているのかわからないのです」と祈って下さり、神と人との間に平和の道が開かれました。力づくで自分達の平和を守ろうとする世の方法とは、全く異なるものでした。

同様のことが1955年、エクアドルのジャングルで起きました。「白人への憎しみを募らせているアウカ族の人達と仲良くなりたい、福音を届けたい」と周到に準備を重ねて村を訪れた、5人の宣教師が無惨にも殺されました。が、誰一人としてそれぞれ携行していた銃を使わず、最後まで「あなたと友達になりたい」と伝えていたのです。そして、2年後にやり場のない思いを超え、幼い娘を連れて村に入った一人の妻によって、赦しと信仰の道が開かれました。「殺し合いからは何も生まれないわ、でも赦すと友情が生まれるのよ」、仕返しと敵意のスパイラルは閉じられました。

イエス様に倣う人々によって、平和が生まれていきます。

牧師 大月 康子



2月9日礼拝後、  
2年ぶりのN.D.姉と共に  
記念写真

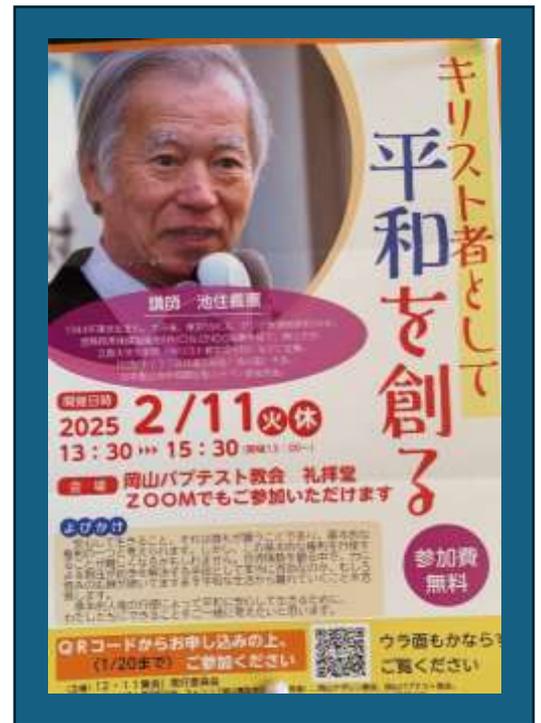


## 「2025 2・11平和集会に参加して」

2月11日 13:30~16:00、岡山バプテスト教会で「2・11 平和集会」が50人ほどで持たれ、永松先生(zoom)・T姉・大月が参加しました。NGO や大学教育、自衛隊イラク派兵差し止め訴訟などに関わってこられた池住義憲師が「キリスト者として平和を創る」と題して、明確な視点で語って下さいました。

「We are not Numbers!」(私たちは、「数字」じゃない!)という言葉をかかれたことがあるのでしょうか。戦禍や災害について死者〇〇人と報道されるのを見ますが、デジタルされると一人一人に思いを馳せることなく、また数が大きくなる程に痛みや悲しみが見えなくなっていく、そんな現代の風潮に対して違和感を唱える言葉だそうです。

「現在 80 歳、2 年前に脳梗塞、後 20 年はがんばる」と話される先生の、戦争、災害、白血病、様々な支援に取り組まれるお姿に教えられました。(記・大月)



証し

“今日まで守られ”

M.M 姉



私がキリスト教を知ることができたのは結婚式でのアルバムに、牧師よりみことばを書いてくださったのが「このように あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから 上にあるものを求めなさい。」コロサイ3章1節 初めてのみことばを目にする私には、どのような意味かわかりませんでした。それからの日々は、主人について日曜礼拝に行くだけで、何も変わる事のない毎日で、信仰の思いはありませんでした。

そのような時、神様に守られ、何もわかっていない私に対して示されたことが、色々の事柄(試練)をとおして教えられ、そのことにより信仰への思いが守られ、支えられ、恵みの中にあること、人への思いやりや祈ることの大切さに気付くことができました。今思えば、自分ひとりでここまでこられたのではないことに感謝の思いしかありません。そして、齢と共に教会生活ができ、牧師はじめ信徒の方々のお守りとお支えをうけ、その居場所にいられるありがたさと恵みに感謝しています。

またこのような齢(88歳)になっても大切な献金の奉仕もさせていただき、言葉もつたない祈りですが感謝しこれからも変わらない生活ができることを願っています。